

発行
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018
札幌市中央区北 18 条
西 15 丁目 3-19 安藤方
電話・FAX 011-556-8834
hokkaidopolandca@gmail.com

POLE

第 91 号 2017. 4. 25
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会
東京事務所

〒107-0052
東京都港区赤坂 9-6-29-309
音響計画(株) 霜田気付
電話 03-6804-1058
FAX 03-6804-6058

第80回例会

どなたも入場無料
(ケーキつき)
予約不要。
直接会場へ
お越しください!

午後のポエジア Part7



写真は昨年までの様子

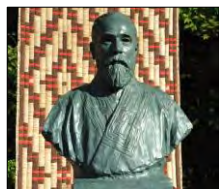


詩劇「ピウスツキ～ポーランド・サハリン～愛と死」

当会の恒例行事「午後のポエジア」も7回目になります。今年では会場・構成を一新し、プロニスワフ・ピウスツキ生誕 150 年(2016)没後 100 年(2018)にちなんで「ピウスツキ」を大きなテーマとしました。

ピウスツキはサハリン島に流刑になり、のちに樺太・北海道アイヌ民族を研究した人類学者ですが、彼の周辺で詩になりそうなものは、樺太アイヌの妻との出会いと別れ、そして彼の死などのみでしょう。

そこでまず、サハリン島にポーランド人たちがなぜやって来たのかという経緯からはじめて、彼らは如何に生きたのかを交えて、ピウスツキの時代までを手短に紹介します——ポーランドにも平和な時代



があつて、三国による分割統治時代、続いて独立運動で蜂起する人々、統治国による弾圧、それらが流刑へとつながっていきます。

サハリン島には多くのポーランド人が流刑になりました。決してピウスツキだけではなく、流刑囚のほかにも、ロシア軍の傭兵にも、監獄の監視人にもポーランド人がいたのです。

また、ピウスツキはなぜアイヌ民族や北方少数民族の研究に向かったのでしょうか。彼はのちに人類学者として評価されますが、もともとは法律を学ぶ学生でした。彼の本当の狙いは何だったのでしょうか。この「詩劇」を通して彼の別な側面も知っていただければと思います。

ぜひ、お誘いあわせでご覧ください。(尾形芳秀)





《第80回例会》朗読とお茶の会「午後のポエジア」7

日時:2017年5月27日(土)14:00~17:00 (開場30分前)

会場:ドラマシアターども(江別市2条2丁目7-1、TEL 011-384-4011

[JR 札幌駅より最速20分]JR 江別駅を出てすぐ右手へ徒歩5分)

14:00~15:30 (第1部)

《詩劇》ピウスツキ~ポーランド・サハリン 愛と死~

原作 尾形芳秀、演出 斉藤征義、舞台監督 霜田千代麿

演奏 ミハウ・マズル、シルビア・オレヤージュ、ラドスワフ・スト

ジャウカ(合唱)、坂田朋優(ピアノ)、松山敏(サクソフォン)、

川上恵、結城志穂(ムックリ)、橋本隆行、福本昌二(トンコリ)

朗読 園部真幸、小林暁子、尾形芳秀、熊谷敬子、松山敏、

大島龍、菅原みえ子、霜田千代麿(墨象)、シルビア・オレヤ

ージュ、長屋のり子(自作詩)



15:40~17:00 (第2部)

詩の朗読と交流の会 (お茶、ケーキ、ワイン、スナックつき)

(朗読・音楽演奏)飛び入り歓迎

入場無料

共催 札幌市・札幌市教育委員会
後援 札幌市・札幌市教育委員会

お問い合わせ: TEL 090-2695-3880、FAX 011-812-9872、Eメール: cocobluemoon@gmail.com (小林)

《第81回例会》ポーランド映画ビデオ鑑賞会 2017

イエジー・カヴァレロヴィチ監督の世界

ポーランド映画ビデオ鑑賞会第二弾として、カヴァレロヴィチ監督の名作『夜行列車』(ヴェネツィア国際映画祭ジョルジュ・メリエス賞受賞)と『尼僧ヨアンナ』(カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞)をとりあげます。お問い合わせでご参加をお待ちします。



日時:2017年7月17日(月・祝) 13:00~

会場:札幌エルプラザ 4F 大研修室(北8西3)

13:00~14:40 夜行列車 (100分)

14:50~16:40 尼僧ヨアンナ (108分)

16:40~17:00 作品について意見交換

入場無料



夜行列車 1959

スターリン死後の“雪解け”で改革成った、ポーランド映画界の充実期に作られた、みずみずしさと力強さを合わせ持つ秀作。

主人公マルタは年下の男との恋を逃れて、ワルシャワからバルト海沿岸に向かう夏の週末の夜行列車に乗り込む。乗客は聖職者、医者、弁護士、新婚カップル、不眠症に悩む男などさまざま、彼女を追う恋人もその中にいた。そこへ一人の殺人犯が紛れ込んだため起こる波紋をサスペンス風に描きながら、それぞれの人生を鋭くあぶり出す。

尼僧ヨアンナ 1961

20世紀ポーランドを代表する作家イヴァシュキエヴィチ(1894-1980)の短編小説の映画化。

ポーランド北方の辺境の尼僧院に赴任する司祭スリンが僧院近くの宿屋で僧院の噂を聞く。院長ヨアンナをはじめ、尼僧たちはみな悪魔にとりつかれ、スリンの先任者はヨアンナの魔性に狂って火刑に処されたのだ。そして会ったヨアンナは、平常時は美しく淑やかだが、ひとたびその魂が悪魔を呼べば、獣のように肉の交わりを求めて這いずり回るのだ……鬼才カヴァレロヴィチによる真の恐怖映画。

《第 80 回例会》午後のポエジア 7, 2017.5.27

《詩劇》ピウスツキに参加して

菅原 みえ子

十年程前のこと、霜田千代磨さんからご案内をいただき、江別のドラマシアターでもⅣでポーランド留学生による詩の朗読を観せていただいた。

そして三年前には、詩を朗読してみないかと誘われ《午後のポエジア》で自作詩を朗読させていただいた。皆さんとても温かく受け入れて下さり感激。

有難いことに、昨年に続き今年もお声を掛けていただいた。ポーランドは私には遠い国で、アンジェイ・ワイダ監督の作品を数本、詩人ヴィスワヴァ・シンボルスカの詩に触れたり、そのくらいの関わりしかなかったが、今年は「没後 100 年記念〈詩劇〉ピウスツキ〜ポーランド・サハリン 愛と死〜」という大きなタイトルのもと、多数の出演者で一つの詩劇を創り上げて行くという。浅い知識と認識しか持たず、非会員の私などが関わって良いものかとチラリと思ったが、そこは図々しくお引き受けした。

打合せと同時に俄勉強もスタートした。ピウスツキが愛した樺太アイヌ女性の存在、その女性との子孫が現在国内に沢山おられること、サハリンは三年前訪れ栄浜に立ったが、そこが亡き伯母の地であったことを後に知り、知識のみのサハリンが今ひたひたと迫り満ちつつあること、今回の舞台の一つが栄浜であったこと…等を知り私の心は躍った。

当日の会場は十年ぶりに、江別市のドラマシアターでもⅣである。空模様怪しく遂に大雨。私達の不安をよそに早くからお客様が押し寄せて下さった。会場は早くも熱気に包まれている。

ここ江別は樺太アイヌの方々の暗い歴史の地、

対雁(ついでしかり)である。偶々この地でピウスツキの詩劇を「言挙げ」する意味は大きい。まさに「場の力」を想った。そしてアイヌ民族の方々にご出演いただけたいことは何より嬉しい。ご家族や可愛い赤ちゃんも客席で応援していただいたことも大きな喜びであった。

詩劇は尾形芳秀さん原作の骨太で壮大なドラマで、出演者ひとり一人が個人の持てる力をフルに発揮した結果、一つのハーモニーを醸し出した…と思うのは手前味噌だろうか。

ピアノ、サクソ、ポーランド国歌、詩の競演、朗読、墨象「愛」のパフォーマンスとバラエティ豊かに繰り広げられた。なかでも圧巻は詩人長屋のり子さんの自作詩「盲いたシンキンチョウの絶唱」の朗読。この大作を僅か 40 分程で完成させたとか。正に神業である。この時のり子さんはエンチュウ(樺太アイヌ)の「愛に生きたひとりの女」そのものであった。

お終いはアイヌの奏者によるムックリとトンコリ演奏。永遠に浸っていたい心地よいリズム。魂を奪われるとはこのことか。舞台と客席合わせて 80 名の人々は一つになりこの時みな輝いていた。

私はようやく会に入れていただこうと心が定まった。樺太を経由し、知らずに訪れていたリトアニアのヴィリニユス(ピウスツキと、ワイダ監督遺作の主人公の画家が住んだ土地)も経由して、今こそ独りゆっくり丁寧にポーランドへ歩を進めようと思っている。

(すがわら・みえこ)



(左)橋本隆行, 福本昌志, 園部真幸, 坂田朋優, 熊谷敬子, 菅原みえ子, Michał Mazur, Sylwia Olejarz, 小林暁子, 長屋のり子, 霜田千代磨



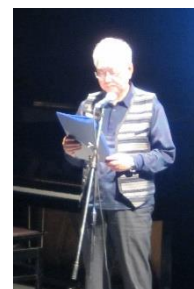
(上) 国歌・ドブロフスキのマズルカ:
(左端) Radosław Strzałka



(下・左) トンコリ:
福本昌志, 橋本隆行
(下・右) ムックリ:
結城志穂

〈詩劇〉ピウスツキへの補遺

尾形 芳秀



来年は「ブロニスワフ・ピウスツキ没後 100 年」にあたることを記念して、霜田千代麿氏の発案で〈詩劇〉が企画されました。この上演には大勢のみなさまにご参加いただき、原作者(構成者)としては望外の喜びでした。ただ、いくつかご質問をいただきましたので、以下に補足させていただきます。

1. 構成年代

本作では、ピウスツキが流刑になった 1887 年から、弟ユゼフの使者により妻へ死の知らせがあった 1934 年までを描いている。

2. 当時のサハリン島への流刑ルート

- ①シベリア経由サハリン島へ: チェハンスキらは 1885 年にこのルートでサハリン島へ流刑。
- ②ウクライナのオデッサ港からスエズ運河回りの義勇艦船でウラジオストク経由コルサコフへ: ピウスツキは 1887 年にこのルートで流刑。帰路はウラジオストク→日本→米国→ポーランド(ガリツィア)と辿った(1906)。

3. ピウスツキの妻の名前

昨今はアイヌ民族の妻の名前は「チュフサンマ」とされているが、今回は時代のロマンを感じてもらうため、敢えて「シンキンチョウ」を採用した。一つにはこの構成年代ではこの名前で呼ばれており、1934 年に樺太を訪れた弟ユゼフの使者ポウチンスキも紀行文でこの名前を使っていることによる。

4. ピウスツキと他のポーランド人流刑囚の関係

ピウスツキは流刑地でアイヌ民族を研究した人類学者として評価されているが、彼は何故サハリン島南部の街や同邦人の住む人里から離れた土地で研究や教育を行ったのであろうか? 私は、ピウスツキの意図はコルサコフ管区の監視の目を逸らすことではなかったかとみている。それは彼には母国の独立支援という大きな目的があったからであろう。

彼の住むアイ集落はコルサコフから直線で約 100km も離れている。研究や報告でコルサコ管区と連絡を取るためには、この 100km の汚泥の道を歩かなければならなかった。到底一日で踏破できる道ではなかった。コルサコフを一步出ると開拓囚の集落が僅かに点在するだけで、その上監獄を嫌って開拓を志願しても、その苦難に耐えきれず野盗化する者も相次いでいた。チェハンスキ率いるワルシャワ村(ノヴォ・アレクサンドロフスク)までは約 50km ある。この地からコルサコフ管区まで支給物

資を受け取りにいった帰り道、野盗化した賊に襲われ二人が犠牲となっていた。

このような環境からピウスツキを守ったのは同胞たちだった。彼らの支援があつてこそ、ピウスツキの真の目的が達せられたのであろう。彼らは母国内戦を闘う弟ユゼフのことを知っていた。写真も持っていたが、これらの写真は誰から入手したものであろうか。これらの行為はコルサコフ管区には極秘裏に進められていたことが窺えるのである。

引用・参考文献

- 1) チェハンスキから妻への手紙、妻から夫フランツへの手紙: 露囚物語～流刑囚フランツ・チェハンスキー、寒川光太郎著、沖積舎、1981.10、新装覆刻
- 2) プーシキン「シベリアへ」:(1)露囚物語、(2)シベリアの鉦山の奥底でも～プーシキンの詩による4つのモノローグ、曲 ショスタコーヴィチ Op.91-3、詩 プーシキン、藤井宏行訳、2006.3.11
http://www7b.biglobe.ne.jp/~lyricssongs/TEXT/S1_059.htm
- 3) チェーホフ「シベリアの旅」: チェーホフ全集 12、松本裕訳、ちくま文庫、1994
- 4) アポリネール「ミラボー橋」堀口大学訳、Guillaume Apollinaire - Most Mirabeau, tr. by Adam Wazyk
<https://milosc.info/guillaume-apollinaire/most-mirabeau/>
- 5) ポーランドのアイヌ研究者ピウスツキの仕事、井上絨一編集責任、北海道ポーランド文化協会ほか、2013.10.20(「年譜」「樺太のポーランド人たち」など)
<http://hdl.handle.net/2115/53543>

* 日本とポーランドの国交樹立と樺太

- 1918 年 11 月、ポーランド共和国成立
- 1919 年 3 月、日本とポーランド共和国が国交を樹立
- 1920 年 4 月、ポーランド共和国駐日臨時代理公使にユゼフ・タルゴフスキを任命、8 月東京着任
- 1921 年 5 月、在ポーランド初代日本公使川上俊彦着任
- 1925 年 8 月、スタニスワフ・パテック(Stanislaw Jan Patek, 1866-1944, 1919-20 外務大臣, 1921-26 初代駐日公使)が樺太のポーランド人を訪問し母国のパスポートを発給(樺太日日新聞)

詩劇・ピウスツキ(動画)

<https://www.youtube.com/channel/UCMj79F42yAXTgXRyYgXLDiw>

《新刊紹介》

東北アジア研究センター叢書第 63 号

(東北大学東北アジア研究センター, 2018.1)

ブロニスワフ・ピウスツキのサハリン民族誌

～二十世紀初め前後のエンチウ、ニヴフ、ウイльта～

高倉浩樹監修／井上紘一訳編・解説

目次

序(井上紘一) …………… ix	藏譯の邦語稿は一九一一年上梓) …………… 259
復命報告	樺太アイヌのシャーマニズム(原著は一九〇九年公刊、 和田完訳の邦語稿は一九六一年上梓) …………… 283
(報告 1) 一九〇二～一九〇三年の樺太アイヌへの旅の 予報 …………… 9	樺太島の原住民における分娩・妊娠・流産・双子・畸 形・不妊・多産(一九一〇年公刊) …………… 313
(報告 2) B・O・ピルスツキーに関する情報 …………… 20	アイヌ(一九一一年公刊) …………… 355
(報告 3) 樺太島へ出張した B・O・ピルスツキーの「委員 会」書記宛書簡 …………… 22	ギリヤークとアイヌにおけるハンセン病(一九一三年公 刊) …………… 367
(報告 4) 中央・東アジア研究「ロシア委員会」議長 V・V・ ラドロフ氏宛書簡 …………… 29	樺太島のオロッコへの一九〇四年の旅より(一九一三年 十一月末擱筆、一九八九年公刊) …………… 391
(報告 5) 一九〇三～一九〇五年に樺太島のアイヌとオ ロッコの許へ出張した B・O・ピルスツキーの報告…35	樺太アイヌの熊祭りにて(一九一五年公刊、初稿は一九 〇七年二月以前に擱筆) …………… 483
論文	参考論文・記事
樺太ギリヤークの困窮と欲求(一八九八年四月二十日 擱筆、同年公刊) …………… 75	アイヌ(M・M・ドブロトヴォルスキー著) …………… 647
アイヌの生活整備と統治に関する規程草稿(一九〇五 年三月擱筆、二〇〇〇年公刊) …………… 125	小田寒での熊送り(石田収蔵著) …………… 671
樺太アイヌの経済生活の概況(一九〇五年三月擱筆、 一九〇七年公刊) …………… 169	樺太島におけるチュフサンマとその家族(井上紘一 著) …………… 681
樺太島の個別アイヌ村落に関する若干の情報(一九〇 五年五月以前擱筆、一九〇七年公刊) …………… 205	毛深い人たちの間で(W・シェロシェフスキ著) …………… 737
樺太に於ける先住民(原著は一九〇九年公刊、鳥居龍	日本の新聞が報じたピウスツキ関係記事(井上紘一編 著) …………… 813
	ブロニスワフ・ピウスツキ年譜(井上紘一作成) …… 865
	跋(高倉浩樹) …………… 893

ピウスツキの妻チュフサンマの写真(本書より)



(1) 53 才のチュフサンマ(北里蘭撮影)
1931 年 8 月 15-16 日、白濱にて [北里 1932]



(2) 1934 年 1 月のチュフサンマ [Janta-Polczyński 1936]



(3) チュフサンマと少女 (1902-1905 年、ピウスツキ撮影)



(4) 助造を抱くチュフサンマとその親族
(1904-1905 年、ピウスツキ撮影)

(本書は非売品ですが、国内外の主要な大学図書館に寄贈されます)

詩『盲いたシンキンチョウの絶唱』について

長屋のりさんの詩(POLE 92-2, 2017.9)について、詩人は己の想像力を自由に羽ばたかせ一切の束縛を度外視して真情の吐露(言語化)に生命を賭すことを大前提としつつ、ブロニスワフ・ピウスツキの一研究者として、細かなことで誠に恐縮ですが、以下のように補足させていただきます。(井上紘一、2017.9.15)

1) 詩では Bronisław Piotr Piłsudski (BP と略記) へ「ピオトル」と呼掛けておられ、これには詩想の必然性があるものと思われます。ただ BP はポーランドやリトワニアでは「ブロニスワフ/ブロニス Bronisław/Broniś」と呼ばれていて、父親の名を踏襲する second name (ピオトル Piotr) で呼掛けられることはありませんでした。サハリンでも同じで、チュフサンマが彼をそのように呼ぶことはなかったでしょう。

2) 彼の妻の名前「シンキンチョウ」は、ご子息の木村助造さんによれば間違いで、実際は「ジユウサンマ」と明言されています(上記『…サハリン民族誌』716 頁)*。村崎恭子さんはこれを /cuh san mah/ と音韻表記し、「太陽から下りてきた女」と解しています。

「シンキンチョウ」は能仲文夫『北蝦夷秘聞』(1933)が初出でヤンタ=ポウチンスキ(1936)も踏襲していますが、それ以前は松川木公(1909)、青山東園(1918)、千徳太郎治(1929)がいずれも「チュサンマ」と、1940年代前半には知里眞志保も「チュフサンマ」と記しています。

3) BP が 1918 年に「ミラボー橋の下で」死亡とありますが、実際は 5 月 17 日「芸術橋 Pont des Arts」の上からセーヌ川へ身を投げ、遺体は 21 日にミラボー橋の袂で発見されました。

4) BP は 1887 年 8 月 3 日、既決囚として樺太島北西海岸のアレクサンドロフスク哨所(亜港)に到着、これが初来樺でした。ただし、監獄当局が 1896 年 7 月、測候

所設営のためサハリン南部へ彼を派遣した際の上陸地はコルサコフスクだったと思われます。

5) 「5月の夕暮れ」に「美しい湖のほとり」で「あなたにはじめて抱かれた日」は能仲情報によると思われますが、同場面は 1903 年 2 月頃にアイ・コタンの浜辺で出来と推測されます。「5月」にはブロニスワフは旅行中でした(前掲書 695 頁)。「美しい湖」は内淵(ナイブチ)の畔にある「白鳥湖 озеро Лебяжье」を指すのでしょうか。

6) 長男助造の生年が「1903 年」、長女キヨは(1905 年)「秋」に出生とありますが、実際は長男が「1904 年 2 月 12 日」、長女は「1905 年 12 月 18 日」に誕生と想定されます。

7) 詩作上の「トポス」は上述の「美しい湖」、「テンポ」はヤンタ=ポウチンスキから BP の死を初めて聞かされた 1934 年の「今日」(=1 月 8 日)に設定されていますが、夫の死はすでに 1925 年頃「露人の通辯」(=白浦[シララカ]のアダム・ムロチコフスキ)から伝えられていたそうです(金田一京助『北の人』179 頁、1934)。

たとえ、それが詩魂の生み出した vision, virtual reality だったとしても、チュフサンマへ寄せる夥しい共感の発露にほかならぬ、長屋さんの創造の営為には衷心より敬意を表します。

(注:安藤厚)本稿は詩の作者に宛てて書かれたものですが、両者のご快諾をいただきましたので、上記の新刊紹介と併せてここに掲載します。